「革新的医療技術創出拠点プロジェクト」の概要について

日本 DDS 学会 理事長

今井浩三*

東京大学医科学研究所
病院長

国から平成 26 年度の医療分野の研究開発関連予算要求のポイントが、公表されている。そのなかで、臨床研究・治験への取り組みとして、「革新的医療技術創出拠点プロジェクト」が注目される。本プロジェクトは、文科省および厚労省が一体となって新たな事業を創出することにより、両省の強みを生かしながら、アカデミアなどにおける画期的な基礎研究を一気通貫に実用化に繋ぐ体制を構築するとともに、各開発段階のシーズについて国際水準の質の高い臨床研究・治験を実施・支援する体制の整備も行う、とされている。また、拠点組織や研究費を大幅に拡充・強化し、革新的な医薬品・医療機器が持続的に、かつより多く創出される体制を構築する。

その方向で、2020 年度までに、医師主導試験届け出数、年間 40 件、First in Human (FIH) 試験数、年間 40 件を目指すとしている。

臨床につながる質の高い研究が展開されるためには、基盤的研究がきわめて重要であることは論をまたない

が、この点を確保しながら、良い臨床研究を展開し、これを世界に問うことも重要であり、その面で予算が増額されることは評価できる。

この機会に本学会会員には、DDS を活用した新たな治療法などの展開が期待される。また、長期的に考えて、企業の指導的立場の方にも、アカデミアと協力して日本特有の DDS 技術を開発する、高いリーダーシップを発揮していただきたい。我が国において長年蓄積された知識と技術を結集し、我が国発の DDS 技術を用いた新しい医療を展開するチャンスの年ととらえることができる。

また、本年は、日本 DDS 学会が 1984 年に設立されて 30 周年を迎える節目の年にあたる。秋には、記念シンポジウムが予定されており、特別な年であるので、国の研究開発関連予算の増額に応じて、会員の発奮に期待したい。

*Kohzoh Imai : Introduction of the Governmental Project of "Innovation of Creative Center for Novel Medical Technology"
The President, Japan Society of Drug Delivery System
IMSUT Hospital, Institute of Medical Science, The University of Tokyo